

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2004 8 No.633

発行日 2004年（平成16年）8月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 平本邦夫
定価 100円（税・郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「風になる…」小平英博さんは船舶免許を取ろうとしていた16歳の時に、事故で車いすの生活になった。船は諦めていたが法改正で取得可能となったことを知り、努力を重ね1級免許を取得した。昨年、障害者の海洋スポーツ支援を行う「ヨットエイド神奈川」を知りメンバーの一員となった。「免許は取ったもののその先に進めませんでした。仲間ができたからヨットに乗ることができました。夢は自分で舵を握り外洋に出ること。どこまでできるか挑戦したくて、自分のヨットで研究中です」と話す。（写真・文 菊地信夫）

あんどる

横浜駅界隈は一日中ひと、人、ヒトでごったがえしています。その雑踏の中を通勤していますが、最近、人の間をぬって歩けなくなっています。加齢によるものと諦めています。が、若い人にぶつかり、睨まれると、「私だって十年前までは、あなたよりもっと上手にスイスイ歩けたわよ！」と小さな声でブツブツと言っています。

亡くなった父が、よく「お前の話し方は早口で品がない」と言っていました。

その時は、「何故？子どもの頃から同じような話し方なのに」と思っていました。

わが共同募金会にも、早口の職員がいます。電話で話しているのを聞いていると、自分の話している速さに、自分で戸惑っていることがあります。

話したいことがいっぱいあるのに、時間がないからというのはいく分かかりますが、電話の相手には、それが分かってももらえていないのだから心配になります。その実、私も彼の話を聞き取れないことがあるのです。父は私の話を聞き取れなかったということが、今になってようやく分かりました。

それ以来、ゆっくり話すようになりました。年を重ねないと分からないこともあります。

県共同募金会事務局長 岡村良子

目次……………CONTENTS

住民参加に基づく社協組織・事業運営に向けて……2・3
「かながわ障害者IT支援ネットワーク」発足……4
運営適正化委員等選考委員会候補者の公示……5
痴呆性高齢者GHの外部評価結果公表へ……6
長寿社会開発センターいきいきはつらつ……7
連載・つながりをもとめて(5)……10・11

住民参加に基づく社協組織・事業運営に向けて

変革期における社協組織のマネジメントのあり方を提言

だれもが自分らしく暮らし続けることが可能な社会に。その実現化には、住民や行政・福祉関連団体・機関はもとより、生活に関連する様々な分野の連携・協働で地域福祉を推進していくことが重要です。中心的な役割を果たす社協の存在意義も再認識される一方で、社協は行政の下請け機関、あるいは「社協＝事務局」と見えていたり、存在自体を知らない

という声もあります。

本会市町村社協部会では、市町村社協組織運営強化推進委員会（委員長：大胡政男大磯町社協会長）を設置し、社協の使命の明確化と、組織・事業運営の充実に向けた提言を、「市町村社協におけるトップマネジメント機能の構築にむけて」としてまとめました。

キーワードはマネジメント

「『社協』って何をしているのかわからない!」、「『社協』って行政の下請け機関じゃないの?」、「『社協』って事務局のことを言うんじゃないの?」——こういった声をよく聞きます。社協の理事さん、事務局長さん、職員のみならず、どう説明しますか?」

「『社協』って一人ひとりの住民の声を聞いて、地域の課題を明らかにして、みんなで、そして行政とも一緒になって、解決していくしくみを、地域社会をつくっていくところだよ!」——どうしたら、そういった社協になっていけるのでしょうか?」

報告書の冒頭部分からの抜粋です。続けて、「住民から信頼される、私たちの『社協』にしていくために」、「『社協』のめざすもの、使命を明らかにし、住民ニーズを原点到、幅広い住民参加のもと、地域の生活問題の解決に向けた取り組みを推進する」とこと、「『社協』の組織を改めて点検し、理事会、事務局が一体となった社協組織・事業運営を行う」ことを具体化していく必要があり、その際キーワードとなるものとして、「マネジメント」の確立の必要性を提唱しています。

委員会検討の背景

現在改めて、「地域福祉」の重要性が喚起されている背景には、福祉が特定の人だけの問題ではなく、生活していく上でだれもが関係するものであり、だからこそ住民一人ひとりが自分の問題として考え、知恵を出し合い、あらゆる資源を活用し、協力し合って自分たちの住みよい地域を作っていく大切さが共通認識となってきたことがあげられます。犯罪の低年齢化や弱者への虐待、リストラによる低所得層の増加等、これまでの福祉の領域だけでは人々の生活は守れなくなっており、保健・医療はもちろん、産業や教育、都市整備

報告書に関連した市町村社協部会のこれまでの取り組み

- 自主点検運動(H10・11)
市町村社協の問題明確化と解決にむけた点検項目(H9作成)による取り組みの推進
- 財源のあり方検討委員会報告(H11・11)
社協の役割・機能をふまえた財源確保のあり方の提言
- 市町村社協部会活動あり方検討委員会報告(H14・3)
部会見直しにあわせ、市町村社協のマネジメント構築の指針案を提案、モデル地域における実践・評価の実施

など様々な分野が連携・協働して地域の問題を考え、解決の手段を探っていく必要があります。

その際の施策・財源も行政だけが用意するのではなく、民間の知恵を集めていく必要があります。行政は住民の意見を聞きながら、庁内の連携によって効果的な施策を打ち出していく必要があります。その時に、民間の資源や人、知恵を結集し、行政とのパイプとなるのが社協の役割です。

こうした使命・役割を実現するために、社協組織は住民を始め、様々な関係団体を会員とする組織の特徴を生かして地域の課題を持ちより、共通の目標をすえて、計画的に参加・協働による課題解決の取り組みを進めていくために「地域福祉活動計画」を策定・推進しています。

しかし、改めて現状を見直すと、「地域福祉活動計画」は、策定・推進の過程への参加・協働の弱さがあり、幅広い関係者・団体の計画になっていなかったことが浮かび上がってきました。また、社協事業・活動個々の場面で、会員の参加・協働の場の機能が十分に生かしきれず、会員の課題を持ちよって地域福祉推進に向けた社協のあり方を論議する理事会も、とすれば形骸化してきているところ

るも見えてきました。一方で、新たな生活課題に対応する住民活動は次々に生まれてきており、社協の存在意義が地域の中で問われていきます。

こうした現状を踏まえ、委員会では社協の使命を内外に明らかにし、使命にそった組織運営体制を構築していくことが重要と考えました。中でも組織運営の中核を担う理事会と会長、事務局長に焦点をあて、トップマネジメントのあり方を提言しました。

マネジメントの役割

報告書では、マネジメントは「社協の使命が組織メンバーに共有され、意思が統一され、メンバーに誇りと励ましを与え、貢献意欲を高めて社協組織が発展していくために必要な機能」としており、マネジメント構築に向け次の三点が必要だとしています。

①社協組織の使命を明確に住民に理解されるものにする
②社協組織・事業運営を、住民ニーズを原点到効果的に展開できるようにする

③誰が組織として責任をもち、組織・事業運営を展開しているのか明確にし、理事・事務局一体的な組織・事業運営を展開していく
また、マネジメントを推進して

いく理事会と会長、事務局長の「トップマネジメント」の六つの機能を、次のように提言しています。

①目標や課題の設定と達成に向けた戦略の立案

②目標達成のための情報の共有化・調整・統合

③人的資源の開発

④必要経費の調達のための財源の計画化

⑤スタッフの業務の評価と意欲を高めるためのスーパバイズ

⑥目標に照らした達成度（成果）の評価

さらに理事会と会長、そして事務局のトップである事務局長については、それぞれの役割を明確化し、現状に照らした改善の例を提示しています。

理事会の役割・機能については、先のトップマネジメントの機能に沿った役割のほか、○事務局長の選任・支援・評価、○財源確保への協力、○コンサルタントの役割、○理事会の自己評価と新しい理事を探すこと等、全八項目をあげており、役割を果たす上での改善策として理事選出のあり方や理事会運営のあり方にふれ、先駆的に理事会改革に取り組んだ逗子市社協の事例を紹介しています。

事務局長は、理事会と事務局とをつなぐ扇の要として、事業の進

行管理、職員育成などに目を配りつつ、理事会への情報提供、行政等との連携・協働に向けた協議などの役割をあげ、事務局長選任のあり方や事務局長を支える幹部職員の役割についても触れています。

今後の取り組みに向けて

報告書は県内外でも反響を呼んでおり、全国的に住民ニーズ、住民参加を基盤にした社協組織運営の見直しが課題となっていることが感じられます。

県内の社協では、報告書をもとに、理事研修の機会を持つなどの具体的な取り組みが始まっています。先行している逗子市社協では、新たな課題も見えてきており、改革には相当の時間とエネルギーが必要ですが、いかに組織一体となって取り組むかが前進へのカギとなると思われます。役員・職員一人ひとりが、自らの問題として社協の使命と役割の再確認、組織・事業運営のあり方の点検に取り組むことから、改革への第一歩は始まります。できることから着実に、そして継続的に課題解決に取り組んでいくことが大切です。

市町村社協部会では、トップマネジメントの構築を重点課題にすえ、会長会や事務局長会での協議や研修会を行っていく予定です。

社協とは（「新・社会福祉協議会基本要項」より）

社会福祉協議会は、①地域における住民組織と公私の社会福祉事業関係者等により構成され、②住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現をめざし、③住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整および事業の企画・実施などを行う、④市区町村、都道府県・指定都市、全国を結ぶ公共性と自主性を有する民間組織である。

（地域活動支援課）

住民の皆さん、民生委員、地区社協、NPO・ボランティア団体、施設、関係団体・機関、そして行政関係者の皆さん。これからの社協の変革の取り組みにぜひ注目いただき、様々な場で住民を主体に、参加と協働による地域福祉推進を共通目標において、社協組織のあり方の論議に加わっていただきたいと思っています。

なお、今回の委員会は本報告書の提言をもって役割を終えました。が、本年度から新たに各地域における取り組みを支援する委員会を設置し、市町村社協の改革に向けた取り組みを推進していきます。

重点事業に取り組むための28の行動

少子化の流れを変えるための国の大綱とまる

政府の少子化社会対策会議は、昨年成立した「少子化社会対策基本法」に基づき「少子化社会対策大綱」をまとめました。

大綱では、子どもが健康に育つ社会、子どもを生み、育てることに喜びを感じることができる社会への転換が最優先課題と強調。子どもや子育て家庭を、世代を超え行政や企業、地域社会も含め、国民全てが支援する新たな支え合いと連帯を作りあげることが求められているとし、①自立への希望と力、②不安と障壁の除去、③子育て

ての新たな支え合いと連帯―家族のきずなと地域のきずな―を、施策の方向性として掲げ、二十八の具体的取り組みを示しています。

今後は、大綱に盛り込まれた施策を効果的に推進するための具体的な実施計画である、「新々エンゼルプラン」を平成十六年中に策定するとともに、構造改革特別区域制度などを活用しながら、少子化の流れを変えるための施策を強力に推進していくとしています。

◆URL <http://www8.cao.go.jp/kourei/index.html>

「かながわ障害者IT支援ネットワーク」発足!!

ここ数年、障害者のパソコン講習会が、各地で盛んになってきています。その結果、「有償でもいいからITに関するレベルアップを図りたい」、「もっと社会参加をするためにITの技術を磨きたい」、「就労につながるような技術を身につけたい」、など、障害者のIT利活用の広がりを感じ、切実な声が高まってきました。

一方、県内には社会福祉施設やパソコンボランティア（パソコンラ）、リハビリ関係団体などのIT支援に係る関係者・団体も多くありますが、県域レベルのネットワークがなく、情報を共有したり支援技術の向上に向けた研修を行ったりする場がありませんでした。

こうした障害者のIT利活用の広がりを願う声を受けて、本会では、「障害者・高齢者等IT普及推進協議会」を十四年度から設置し、県内のIT支援に係る関係者と共働で、具体的なくみづくりを検討してきました。

この度、総務省の「障害者のIT利活用支援の在り方に関する研究」の実証実験事業を受託実施することをひとつの契機に、県内のパソコンに関わる人たちが中心となり、リハビリ機関や医療機関、障

害者団体、障害者福祉施設、行政、IT関連企業等が連携して、自主的なネットワークを作ろうという機運が高まり、県内初となるIT支援ネットワークが発足しました。

去る七月三日に開催された設立総会では、障害当事者を含めた多くの参加者が集い、市民レベルでの県内におけるパソコン支援の歴史、課題について取り上げられた



ITを活用した障害者の可能性の広がりを願う多くの関係者が集った

ほか、今後予定している研修事業などについて活発に話し合われ、障害者IT利活用の充実に向けた、ネットワークの今後の活動が期待されるものとなりました。

◆かながわともしびセンターともしび普及課

☎045-312-1121(代)

【公示期間】平成16年8月16日(月)～8月31日(火)

【選考委員任期】委嘱より2年間

【選考委員候補者】

氏名	性別	年齢	選考の理由	分野
豊田 宗裕	男	43歳	福祉従事者養成学校の教員として福祉に関する知見を有するため	公益代表
南川 藤夫	男	72歳	民生委員児童委員として福祉に関する知見を有するため	
野上 薫子	女	68歳	介護福祉士として福祉に関する知見を有するため	
大河内秀明	男	61歳	弁護士として法律に関する知見を有するため	
森岩 州治	男	65歳	精神障害者関係団体役員として精神障害者に関する知見を有するため	福祉サービス利用者代表
窪 達也	男	84歳	老人クラブ役員として高齢者に関する知見を有するため	
石川 一明	男	73歳	身体障害者団体役員として身体障害者に関する知見を有するため	
川名 孝雄	男	60歳	障害児者団体役員として障害児者に関する知見を有するため	社会福祉事業経営者代表
出縄 明	男	79歳	知的障害者施設経営者として知的障害者福祉に関する知見を有するため	
川瀬 豊子	女	66歳	高齢者福祉施設経営者として高齢者福祉に関する知見を有するため	
玉盛 達雄	男	71歳	児童福祉施設経営者として児童福祉に関する知見を有するため	
森 三郎	男	74歳	身体障害者施設経営者として身体障害者福祉に関する知見を有するため	

【意見書提出期間】平成16年8月16日(月)～8月31日(火)

【意見書提出方法】

- (1)次の事項を書面(点字可)に記載し提出してください。なお、①、②の記入がないものは無効となります。
※記入の参考となる様式も用意していますので、本会又はお近くの市区町村社会福祉協議会にご請求下さい。
①意見書提出者の氏名、連絡先(住所、電話等)
②意見の具体的内容。特定の候補者に対する意見の場合は、不適切に思う候補者の氏名と明確な理由を記載して下さい。その際、他に推薦する者がいる場合は、当該推薦者の氏名とその推薦理由を記載することができます。
(2)意見書の提出方法
①持参の場合…9時から17時まで。但し、土曜日、日曜日は受付けておりません。
②郵送の場合…提出期間内の消印有効
③FAXの場合…提出期間内の日時刻印有効
(3)代筆が必要な方は、意見提出期間内までに本会又はお近くの市区町村社会福祉協議会にご連絡ください。

【意見書提出先・問合せ】社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 総務企画部企画課

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2 県社会福祉会館内 ☎045-311-1423・FAX045-312-6302

平成十六年八月十一日

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 会長 林 英樹

福祉サービス運営適正化委員会委員等候補者選考委員会委員候補者の公示

社会福祉法第八十三条「福祉サービス利用援助事業の適正な確保及び福祉サービスに関する苦情の解決を行う機関」として、社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会に「かながわ福祉サービス運営適正化委員会」を設置しています。

この委員の選任を行うために選考委員会を設置し、選考にあたりますが、次の方々が人格高潔で社会福祉に理解が深く委員にふさわしいと認められたので選考委員会委員候補者として選任し、公示いたします。

なお、委員の選任についてご意見がある方は、意見書を提出いただきますようお願い申し上げます。

読者の声

—わたしの体験から—

本紙の「ひきこもり」の記事を読んだ時、もうずっと忘れていた昔の自分の姿を重ねていました。中学一年の夏あたりから、私は「不登校」になりました。—ガッコウニイカナイト・ガッコウナドイカナクテモ—毎朝、真夏の満員電車の中で、この二つの言葉に心揺れていたことを思い出します。

「何故?」と自分に問いかけてみると、最初は部活のことや友だちのこと、先生のことと、あれこれ理由を付けて考えているのですが、いつの間にか本当の理由など分からなくなってしまう。どうしてどうしてと考えていくうちに、頭が真っ白になっていくのです。

気がつくくと、いつも人もまばらになった終点の駅にポツンとたたずんでいました。

惨めで情けない気持ちのまま、母の勤務先に電話をすると、母はいつも少し心配そうに「早く帰ってらっしゃい。嫌だったら行かな

くてもいいのよ」と言ってくれました。きっと心中穏やかでなかったはずなのに、ただの一度も学校へ行けとは言われませんでした。今思えば、母は世間体や慣習なんかより、私の気持ちを最優先に考えてくれていたのだと感じています。たとえ嘘をついていようと、私を尊重してくれた母のおかげで、私は癒され、また元気に学校に通えるようになったのだと、今は感謝の思いでいっぱいです。長い人生、誰でも弱ったり辛くなったりする時があります。そんな時は励ましよりも、まず一番そばにいる人が立ち止まって手をさしのべてくれること、優しくさと労わりで包んであげること。そこから生まれる「生きる力」は、きっと人を輝かせてくれるものになるのだと思います。

(向日葵)

▶投稿をお寄せください◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと

県社協のひろば

痴呆性高齢者GHの外部評価結果公表へ

痴呆性高齢者グループホーム（以下、GH）においては、ケアサービスの質の確保と向上に向け、平成十四年より、全てのGHが年一回、外部評価を受審することが義務化されました（十六年度末までの経過措置あり）。

本会は本年一月に県より外部評価機関に選定され、三十四カ所のGHの外部評価を実施しました。外部評価は、GH自らが自己点検・自己評価の結果と外部評価結果の異同について考察し、自らのサービスの特徴部分や改善・強化すべき点などに気付き、質の向上を図る契機とすることを目的としています。

痴呆ケアの切り札として、GHは近年急増し、本県でもすでに二百カ所を超えています。

平成15年度痴呆性高齢者GH外部評価受審事業所一覧

No.	グループホーム名	所在地
1	グループホーム オリーブの家	鶴見区
2	クロスハート中・横浜	中区
3	むつみの家	南区
4	グループホームくるみ	南区
5	RAKU	保土ヶ谷区
6	樹林の風	旭区
7	高齢者グループホーム 三幸の園	旭区
8	グループホーム 磯風の謡	磯子区
9	高齢者グループホーム・セレスソ日吉	港北区
10	高齢者グループホームことぶきの里	緑区
11	グループホーム銀の鈴	青葉区
12	グループホーム やすらぎの郷	青葉区
13	痴呆性高齢者グループホーム 横浜はつらつ	都筑区
14	もえぎケアセンター戸塚	戸塚区
15	スカイホーム 湘南	戸塚区
16	マナーハウス南横浜	栄区
17	グループホーム風の生活館	泉区
18	グループホームいちご苑	泉区
19	グループホーム 朋友	瀬谷区
20	グループホーム みうら富士	横須賀市
21	さくらの家一番館	横須賀市
22	グループホーム ひなたぼっこ	横須賀市
23	グループホーム 湘南の宙と風	平塚市
24	ナノス鶴沼	藤沢市
25	グループホーム茅ヶ崎	茅ヶ崎市
26	グループホーム シオン相模原	相模原市
27	プライムガーデン さがみはら	相模原市
28	グループホーム 相模原	相模原市
29	高齢者グループホーム おやどり	相模原市
30	グループホーム 渋沢	秦野市
31	グループホーム グリーン・ハウス	海老名市
32	グループホーム びゃくしんの苑	葉山町
33	ふれあいの家こすもす	寒川町
34	グループホーム かわわの家	二宮町

本年度は約三十カ所のGHの外部評価を実施する予定です。（企画課）

急増に伴い、GH全体のサービス水準の維持・向上も課題に挙げられています。今回の評価結果でも、GHという小規模サービス形態の利点と課題が明らかになりました。今後は外部評価と併せて、評価を通して明らかになった工夫点や優れた実践を相互に学んだり、多くのGHに共通する課題の改善に共同で取り組んだりなど、GH全体で外部評価の成果を共有できるように支援するためのしくみを整備することも求められます。

今回の外部評価結果は、本年八月下旬以降、本会ホームページ等を通じて公表する予定です。評価結果の公表により、サービス選択のための情報として活用されるとともに、GHのサービスの質の向上への努力が、多くの県民に理解、支持され、なお一層の良質なサービス提供の推進が図られることが期待されます。

Harmony Meeting'04

福祉施設等就職相談会のお知らせ

主に来春採用予定の福祉施設等の人事担当者、福祉の職場への就職を希望する方との直接面談の機会です

第1回 【日 時】11月3日（水）13時30分～17時
【会 場】小田原市中央公民館（小田原駅・徒歩20分）
【求人施設】25施設・事業所を募集予定

第2回 【日 時】11月26日（金）13時30分～17時
【会 場】横浜文化体育館（関内駅・徒歩5分）
【求人施設】120施設・事業所を募集予定

※参加を希望する施設は、10月8日（金）までにお申し込みください。

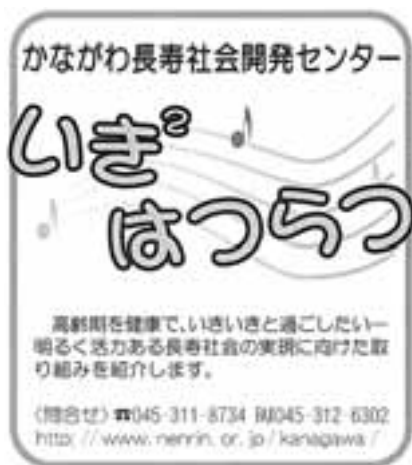
【申込み先】かながわ福祉人材センター

☎045-311-1428・FAX045-313-4590



《お仕事をお探しの方へ》

事前申込みは不要です。直接会場へお越しください。
（参加費無料・お車でのご来場はご遠慮ください）



かながわ高齢者文化祭 『第1回かながわシニア活動 交流シンポジウム』開催に向け準備中!

定年後の人生をどのように思い描いていますか?
自分の住む地域で、あなたらしい第二の人生を創り出してみませんか?

シンポジウムを始めとする様々な企画で、定年後の生きがいづくりや仲間づくりを応援します。

第二の人生を自分らしく輝くために

長年、仕事を中心に暮らしてきたサラリーマンにとって、定年退職時には、人生の大きな区切りとして、安堵感と同時にその後の生活に対する不安感がつきまとうものです。

しかし日頃、会社と自宅の往復が中心の毎日をおくっているサラリーマンにとって、地域社会は馴染みが薄く、何かしたいが、どうすればよいのかと困惑されている方も多いというのが事実です。

センターでは、毎年九月に開催してきた「かながわ高齢者文化祭」の内容を一新し、サラリーマンOBを対象に、定年退職後、仕事に替わる生きがいづくり、また地域での仲間づくりが、第二の人生をいかに充実したもので楽しいものにするかをテーマに、定年後の人生について考える、「第一回かながわシニア活動交流シンポジウム」を開催します。

第一回かながわシニア活動交流シンポジウムは

定年後の人生をどのように考え、新しい人生の一步を踏み出すために、具体的にどう取り組んでいったのか。その時、想像と現実のギャップでどんなことに悩んだ



活動紹介・体験コーナーの風景

り戸惑ったりしたのかなど。
シンポジウムでは、このような状況を乗り越えて、それぞれの能力を生かして地域でいきいき・はつらつと活動されている方々の事例を紹介しながら、シニアの生きがいづくり・仲間づくりについて考えます。

【日 時】平成16年 9月25日(土)

【内 容】

◇シンポジウム 10時～12時30分

◇その他の企画 10時～16時

○「健康づくりコーナー」

体力測定・インスタントシニア体験などを通じ、いきいきと生活するために必要な、心や体の健康を学べる催しを開催します。

○「生きがい・仲間づくりコーナー」

県内各地で活動するシニアグループの活動紹介・交流コーナーのほか、年金や生きがいづくりの相談、セミナーなどを開催し、実りある人生へのヒントをご紹介します。

【会 場】神奈川県社会福祉会館



横浜駅下車・徒歩15分

またこの他にも、心豊かなシニアライフを考えるうえで、参考となる内容を提供できるよう、実際に地域で活躍しているメンバーで構成されたプロジェクト会議を中心に盛りだくさんの企画を準備中です。

定年を控えたあなた。すでに定年を迎え、これからの人生を考えているあなた。是非シンポジウムに足をお運びください。きっと第二の人生の扉を開くヒントがみつかります。

※八月下旬より当センターのホームページ(<http://www.nenrin.or.jp/kanagawa/>)で、詳しい内容がご覧いただけます。

応援します! 第二の人生



図 書

読んでみよう!

★注目!! 地域密着の

小規模・多機能サービス拠点 (村田裕子、筒井書房)

小規模・多機能サービス拠点の特徴と開設に必要な項目をまとめ、事例を紹介している。指定居宅サービス事業者指定申請書の書き方等の資料も掲載。

★もう、うつむかない証言・ハンセン病 (村上絢子、筑摩書房)

★ソーシャルワークとケアワーク (大和田猛、中央法規)

★ソーシャルワークの作業場「寿」という街 (須藤八千代、誠信書房)

★生活保護「改革」の焦点は何か? 誰も

私のおすすめの1冊

「ここからはじめる Webアクセシビリティ」
濱田英雄 他 著



日本障害者協議会情報通信委員会
梅垣 正宏

著者は、視力に障害をもつ人へのホームページの見やすさを定めたJIS規格を開発した作業部会の主査であり、5年以上に渡り障害者に使いやすいホームページ作りについて研究してきたコンサルタントである。彼の講演は誰からもわかりやすいと好評で、いつも超満員だ。本著も、得てしてこの手の本が陥りやすい技術的に難解な迷宮に入り込むことなく、さらりと障害者とホームページの使いにくさ、そしてその改善方法を述べている。自治体や公的機関のホームページ担当者は、本著で「ホームページ改革」を始める絶好のチャンスだ。



2004年刊
ぎょうせい・定価2,381円(税込)

- ★安心して暮らせる日本のために (竹下義樹・大友信勝他、あけび書房)
- ★別居介護成功の秘訣、離れていてもこれで安心 (安岡厚子、創元社)
- ★老いじたく覚書き (野原すみれ&虹の仲間、晩聲社)
- ★疑問あり! 介護保険統合論どこへ行く支援費制度 (障害者生活支援システム研究会、かもがわ出版)
- ★よつこそ反抗期、不登校のこころの読み方 (吉田勝明、講談社)

資 料

★価値あり! ★ギャンブル依存症を考

える (ワンダーポート)

日本で唯一のギャンブル依存症回復施設であるワンダーポートが、社会啓発を目的として開催したフォーラムの内容等をまとめた研究事業の報告書。

★市町村社協活動現況報告書 (本会)

★施設における事故への対応アンケート集計結果 (本会)

★保育現場でのトラブル対応、元気に利用できる保育園を目指して (本会)

★英国の保健医療・社会福祉部門における外国人労働者調査研究報告書 (国際社協日本国委員会)

★「拘束のない介護」に関する研修会・事例検討研究会報告 (湘南老人ホーム)

★親たちの受けとめた支援費制度、支援費制度に対するアンケート調査報告書 (福)全日本手をつなぐ育成会

★長期入院中の精神障害者の状況と社会復帰に向けての課題、平成15年度調査研究報告書 (県立精神保健福祉センター)

★地区福祉のまち推進センター活動の手引き (札幌市社協)

★福祉コミュニティに関する比較研究、埼玉県上福岡市と小鹿野町を事例として (立正大学社会福祉研究所)

★施設における事故への対応アンケート集計結果 (本会)

「福祉資料室」をご利用ください!

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

◆利用時間: 月～金(第3金曜、祝日、年末年始等を除く)の9時～17時

◆問合せ: ☎045-311-8865
FAX 045-313-9341

◆インターネットでの資料検索
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyoto/soyo/>

～「新着情報コーナー」ができました。ぜひご利用ください!～



「kaigo-club.com」のホームページをご紹介します

サラヤ株式が運営する感染症予防に向けたサイト。最近話題にされる感染症の症状が分かりやすく解説されているほか、介護や育児、食事の際にかかりやすい感染症の予防法などが紹介されています。また、よくある質問・疑問を感染症別に掲載したQ & Aや感染予防の専門家によるコラム、おすすめ図書を紹介するコーナーなどもあります。



<http://www.kaigo-club.com>

Information

役員会の動き

◇理事会 7月28日・①正会員入会申し込み、②理事の推薦、③評議員の選任、④各種委員会委員の選任、⑤本会苦情解決事業第三者委員の委嘱、⑥16年度一般会計並びに特別会計補正予算(案)について

◇新会員紹介

【経営者部会】(福)藤心会

【施設部会】リベルテ、あさのみ保育園、真土すばる保育園、第二小田原アシスト、デイセンター永耕、鎌倉由比、いちばん星

◇(福)清水基金「施設等一般助成事業」

◇対象 知的障害関係施設、身体障害関係施設(盲・ろうあ施設を含む)を経営する社会福祉法人(原則一法人一件)

◇助成内容 施設福祉及び地域福祉に必要な建物(新築・改修・増改築・車輛・機器等(建物の改修・増改築は制限があるので、必ず事前に相談のこと。また屋根塗装・ボイラー交換等の修繕工事は対象外)

◇助成金 法人100～700万円以内※事業費の25～50%未満を申込み法人が負担すること。また総事業費が最大1千400万円を超えないこと

◇べ切り 8月31日(火)必着

◇問合せ (福)清水基金

☎ 03-3273-3503

FAX 03-3273-3505

「HOST TOWN」エイブル2上演会

◇内容 16年2月26日～3月5日に長野県で開催される「スペシャルオリンピック冬季世界大会」に併せ、昨年の夏季大会で日本選手団のホストタウンになった、アイルランドの小さな町に暮らす「小さな大家族」のドキュメンタリー映画を上演します。

◇日時 9月4日(土)13時30分開場、14時20分開演

◇会場 関内ホール

◇料金 一般1千500円、小・中学生、障がい者の方1千円

◇問合せ 神奈川トーチラン実行委員会
☎ 045-222-3255

第20回をあげよう車いすハイキングの会

◇期日 9月5日(日)

◇場所 伊豆「金冠山」(標高816m)

◇対象 ①車いす使用の身体障害者の方(小学5年以上で心臓病をお持ちでない方以外であれば、身体がご不自由でもどなたでも参加できます) 50人、②支援ボランティア 250人

◇参加費 ①無料、②一般6千200円・学生3千円

◇問合せ 山岳集団ベルクラブ本部代

表事務所(室井方・18時～21時受付)

☎ 0465-2310416

FAX 0465-2316290

「シンポジウム」引きこもる理由その本音

◇内容 引きこもり経験者や引きこもりの子を持つ親、支援スタッフなどをパネラーとして招き、不登校や引きこもりについて考えます(定員170人・定員になり次第べ切り)。

◇日時 9月19日(日)14時～16時

◇会場 かながわ労働プラザ

◇参加費 一人500円

◇問合せ NPO法人ニユースタート事務局
☎ 047-307-3676

FAX 047-307-3687

寄付金品ありがとうございました

【一般寄付金】▽沼倉清治▽田中良平▽広瀬公子▽脇隆志【交通遺児援護基金】▽大正琴サークル湖陽会【子ども福祉基金】▽NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンデ【としび基金】▽川崎島田郵便局▽逗子マリナーボウリング場▽県立循環器呼吸器病センター▽としびショップ青い鳥▽大盛館▽衣笠病院▽市の湯▽県立生命の星・地球博物館▽日本信販(横浜)支店▽戸井田佐登志▽遠藤寂香▽内田輝光▽佐藤和枝▽高橋輝雄▽佐藤正平▽関野光枝▽杉政泰三▽太田雄造▽沖山英子▽松田登代子▽山内富美子

(計一、〇五五、三三七円)

【寄付物品】▽西湘高校▽神奈川県定年問題研究会▽横浜市老人福祉センター泉寿苑内「泉寿通信友の会」▽神奈川福祉事業協会 (敬称略)

NTTファシリティーズ

社会福祉施設の企画、設計・監理、リニューアルから維持管理まで総合的に施設づくりをお手伝いします。

東京都港区芝浦3-4-1

☎ 0120-72-73-74

TEL 03-5444-5000

E-mail: info@ntt-f.co.jp

http://www.ntt-f.co.jp/architect/index.htm

あなたの情報発信のおてつだい

デザイン・印刷・ホームページ制作



きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市中区金沢区福浦 2-1-12

営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)8902

制作部 TEL045(785)1788 FAX045(780)1598

http://www.kki.co.jp/

活力ある人生をどうデザインしていくか②

前回までは、自殺防止に向けた活動をご紹介しながら、自殺を個人の問題としてではなく、社会全体の問題としてどう捉え、支援していくべきかを考えました。

今回は、変化する雇用環境下での、定年前後期のシニアの「生きがいづくり」について考えようと「NPOシニアSOSHIO横浜・神奈川」（以下、SVYK）の代表理事・山本浩二郎さんにお話しを伺いました。

生活の場と生きがい

サラリーマンを対象にした生活と生きがいに関する調査によると、三十五歳から六十四歳の男性六九・二％が、何らかの生きがいを持っていると回答する反面、年代が若くなるほど、その対象を家族・家庭や仕事とする傾向がみられます（表）。

雇用環境の変化が著しい今日。サラリーマンとして長年に渡り活躍してきた方々も、定年などによる生活の場の転換や年齢の推移に伴う生きがい観の変化に備え、ライフコース（一生のうちにたどる社会的な道筋）をどのように広げていくかが一つの課題といえます。

シニアの才能を地域に生かす

SVYKは、シニアの方々の地域ビジネスを支援する団体として、昨年の六月に設立しました。

「会社勤めや家事で培った経験

や知識を生かして、地域で小さなビジネスを興そうと考えているシニアを支援していこうと、パソコン・インターネットの基本能力の育成や創業のための研修、自分の才能を発見しチャンスを作るための情報交換の機会づくりなど提供しています。現在約百名が、自主的に考えた企画を『この指とまれ』

と呼びかけ合い、手を上げた仲間がワーキンググループとなり活動しています。十一あるグループでは、定期訪問型パソコンサポートやインターネットを利用した教育情報化支援などITを中心とした活動のほか、里山の保全活動や不登校・引きこもりの子どもたちを支援する活動、高齢者世帯の住宅改修サービス、中小企業の事務改善支援など、幅広い活動が行われています」と山本さん。

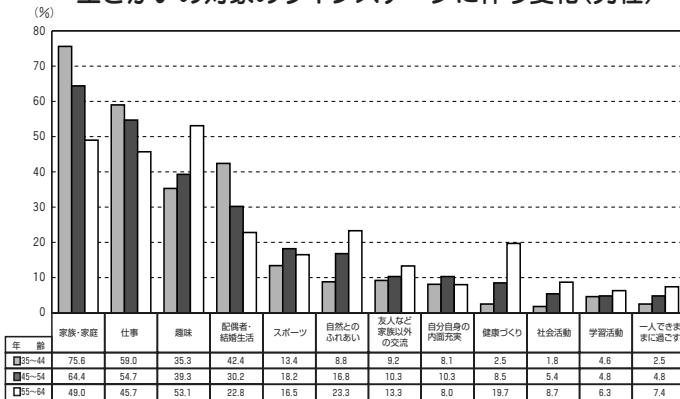
ビジネスであることの意義

同じ目標を持った方々が多彩な

才能を生かし合うことで、活動に広がりが生まれるのだと山本さんは言います。

「自分でいろいろやってきて身に付けたことを何かに生かしたいと考えていても、会社の中では十分に生かすことができなかったという方も少なくありません。そんな理もれている力を発揮できるきっかけを作っていくことが大切だと考えています。個人の能力を社会貢献という形で還元していくということは、地域の方々のお役に立つだけでなく、その人自身の生活が楽しく生きがいを持ったもの

生きがいの対象のライフステージに伴う変化(男性)



※「第3回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」((財)シニアプラン開発機構)より一部抜粋

これからの課題

山本さんは最後に、これからのシニアを視野に入れた、今後の課題について語ってくださいました。

「生きがいを追求する個人の思いが学びや教えの形になって現れることから始まり、それをきっかけに同じ思いを持った仲間が団体で活動する。そして行政や企業、団体などと協働して事業化されるというのが、これまでのシニアが

ひと・ネットワーク 142

「若者に期待」

横浜市保護司会
会長 石原 昌信



小学6年生の凶暴残虐な同級生殺人、女子高生コンクリート詰め殺人犯による釈放後の凶暴な再犯、目を覆いたくなる事件の報道が連日なされています。犯罪の凶悪、凶暴化は、我が国の更生保護制度の根幹を揺るがしかねない問題を孕んでいます。

毎年7月は「社会を明るくする運動」の強調月間で、今年も県下で犯罪と更生をテーマに「ミニ集会」「啓発活動」等が行われました。例年「再犯者の凶暴さを見る時、犯罪者の立ち直りは本当に期待できるのですか」、「社会が犯罪者の更生を必要としているのか」という質問を受けることがあります。

横浜保護観察所における50名余りの保護観察官のもとに、1,800名ほどの保護司が県下の社会の最前線で、更生保護の役割に当たらせていただいております。

殺人による無期懲役仮釈放中の人から少年まで、多種多様な保護観察対象者と毎月面談し、日常の不平や不満の聴き手となり、時に、夢や希望に悼差すこともします。

言ってみれば「寄る辺」の人となってはじめて、本当の意味の保護観察ができるのかも知れません。

この3月、私は13歳で殺人を犯してしまった少年との4年3カ月の関係に別れを遂げました。少年は後半の2年8カ月の間、100回を超える「社会参加活動」で、老人ホームや障害者施設のボランティア活動に参加しました。少年はこうした体験の中で、「この社会には自分を必要とする場面がある」ことをしっかりと自覚してくれたようです。

7年前、福井県沖で転覆したナホトカ号の重油排出ボランティアに参加した時、出会った神奈川県の青年たちの、「国の責任を問う前に、自分たちにできることをしましょう」という言葉が今も忘れられません。若者に期待し、私の責務を続けて行こうと思います。

起業するまでのステップでした。しかし、六十歳まで勤めることも許されない今の雇用情勢にあって、早期離職された比較的若い世代の方々は、経済的・精神的に非常にハングリーな状態になっています。こうした方々が肩肘を張らずに生きがいをもって活躍しているように、新たなステップを考えていくことも必要だと感じています。また顧客の声に答え、サービスの質を向上していくためには、資材調達や保管場所の確保など起業しやすい環境を整備していくための検討のほか、事業型NPOの活動の理解を広げ、活動場所を確保していくなどの取り組みも考えなければと思っています」

実りある人生を送るために

シニアの生きがいづくり支援に必要な事例をまとめてみました。
①円滑に生活の場を転換していくことができる、企業内の「ゆるやかな引退」のしくみづくり
②高齢者像の変化により、社会性や自己実現性を重視した、シニアの能力を発揮できる機会づくりや活動の場を、行政や企業、関係団体が協働し作りあげること
③長期化するシニア期を視野に入れ、家庭や会社以外の、新しいネットワークを地域社会に作ることで④仕事だけでなく家事責任の分担などを可能とする、就業形態の多様化や雇用制度づくり

「生きがいづくり」を支援する主な団体

	名称/URL	☎
1	NPO シニアSOHO横浜・神奈川 http://www.svyk.jp/	045-662-3450
2	かながわ長寿社会開発センター http://www.nenrin.or.jp/kanagawa/	045-311-8734
3	神奈川県生涯学習情報センター http://www.planet.pref.kanagawa.jp/	045-312-1121 (代)
4	NALC (ニッポン・アクティブライフ・クラブ) http://nalc.jp/	03-5413-3821 (東京本部)
5	WAC ((社) 長寿社会文化協会) http://www.wac.or.jp/	03-5460-0521
6	JASSくらぶ ((社) 日本セカンドライフ協会) http://homepage3.nifty.com/jassclub/	03-5300-0661
7	神奈川健康生きがいづくりアドバイザー協議会 http://homepage2.nifty.com/ikigaikanagawa/	045-823-7382 (目黒公男方)

※本県内のシニアのグループ等の情報は、2の「かながわ長寿社会開発センター」までお問合せください

「生きがいづくり」を支援する人材等を育成する主な団体

1	(財) 健康・生きがい開発財団 http://www.mmjp.or.jp/ikigai/	03-3818-1451
2	(社) ビューティフルエイジング協会 http://www.baa.or.jp/	03-3437-2525
3	(財) シニアルネサンス財団 http://www.sla.or.jp/	03-3230-1771

情報やご感想をお寄せください!

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2「県社協企画課タイムズ係」
☎045-311-1423 FAX045-312-6302 e-mail: kikaku@jinsyakyo.or.jp

自然と向き合う活動から生きる力を育む

NPO法人湘南コミュニティサポートセンター（藤沢市）

二十一世紀の社会は「グローバル社会」だと言われています。

世界中の人やモノ、情報が、国境を越えて活発に移動したり流通する社会の到来によって、次代を担う子どもたちには、人と人との互いに理解し協働していくために必要なコミュニケーション力や、課題に向かって主体的に活動する力を身に付けることが求められています。

今回は、自然体験活動を通じて、子どもたちの「生きる力」を育てようと活動する、「湘南コミュニティサポートセンター」（以下、SSC）代表理事の天津明さんに活動について伺いました。

命の尊厳と協働の喜びを感じて欲しい

SSCは、まち興しの研究機関に勤めていた経験を生かして、自主的に社会貢献したいと考えた、天津さんの声に賛同した仲間が集まり活動を開始しました。

「その頃、子どもに関する深刻な事件が社会問題として注目され始めていて、命の大切さや生きる

力を子どもたちにどう伝えていくかが大きな課題となっていました。そこで当面は、子どもたちの生きる力を育てる活動に取り組みことにしました。現在は、川や海でボートを使った独自のプログラムを開発し、児童育成団体の主催



人と自然と謙虚に向き合い支え合うことから「生きる力」を学ぶ

するイベントや児童養護施設の体験学習などに利用してもらっています」と天津さん。

二日間を基本としたスクールでは、ボートに乗るだけでなく、自分の身を守ることや自然や命の大切さを感じることができるよう、

水辺の安全知識やレスキュー技術、川や海と人の暮らしとの関わりなどを学ぶ講座も開催しています。

「講座の後、実際に川や海に出てボートを漕ぐのですが、使用するボートは一人では組み立てることも動かすこともできない非常に大きな物ですので、子どもたちは、必然的に共同作業で準備や操船をするようになります。日頃自己主張が強く相手に寛容になれない子どもたちも、様々な関わりを通じ、自分の意のままにならない他者や自然と向き合う中で、人の折り合いをつける力を学んでいきます。また、一人ひとりに役割を与え、上手くいっただけにはせいっぱい褒めてあげる。その積み重ねから、人の役に立つことへの喜びを感じ取って欲しいと願っています。今後はこうした体験事業だけでなく、高校生や大学生などを対象とした指導者の養成や障害のある方々を対象とした活動にも力を入れていきたい。また、野焼き陶芸や畑仕事を通じた体験活動なども行っていきたいと思っています」と、今後の抱負を語ってくださいました。（企画課）

湘南「コミュニティサポートセンター」

TEL 090-8831-3333

URL <http://members.com/home.njp/ssc/>

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES' Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808

TEL 03(3449)1771代 / FAX 03(3449)1772

E-mail: BCH12011@nifty.com



入所更生施設K学園（厚木市）



新築・増築・改修等お気軽にご相談ください